宇都宮の老舗企業

老舗企業に学ぶ「継続の秘訣」

第12回

御菓子司 桝金・マスキン

（斎藤商事株式会社）

1872（明治5）年創業

かつては北関東一の繁華街として知られたバンバ通り。その中心に建つ「マスキン」は、常に新しい文化を宇都宮にもたらしてきました。創業から130年以上が経った今、製造拠点をバンバから戸祭元町に移して真摯に菓子づくりに打ち込む桝金（斎藤商事株式会社）を訪ね、老舗としてのこだわりなどを伺いました。

代表取締役社長の斎藤高蔵氏

「感謝」が原点、こだわりを持った菓子づくり

「マスキン」と聞けば、宇都宮に生まれ育った人の多くが次から次へと懐かしい思い出話を語り出します。初めての自動ドアやお菓子の実演販売、クリームソーダ、シュークリーム…中華や軽食喫茶、イタリアンの名店として記憶している人も多いことでしょう。

宮っ子たちの憧れの的であったマスキンは、常に時代の先を行くモダンな店でした。マスキンが宇都宮にもたらした文化、それは和洋菓子を中心とする食文化に留まりません。映画や娯楽、建築、ファッションなどの分野においてもマスキンは話題の中心にあり、宇都宮の人々の暮らしと共に存在してきました。そして現在も、パルコやMEGAドン・キホーテの自社ビル招致などを通して、マスキンは新たな文化を宇都宮にもたらし続けています。

そもそも、マスキンの創業は明治5年のこと。後にバンバの映画興行を一手に担い「大馬場を支配せる巨人」と称される初代金次郎が、宮島町で商売を始めました。その後、二荒山神社近くの相生町（現在の馬場通り）に間口二軒半の小さな菓子店を開店。当時は珍しかった洋菓子「金平糖」を店頭に並べて、宮っ子たちを驚かせたという創業秘話が今も語り継がれています。

そして創業から約130年、現在の経営者は5代目の斎藤高蔵社長です。「これまで当社は、時代に合わせた新しいものを、新しい形で提供してきました。初代『金次郎』から、新しいもの好きな部分は引き継がれているのかも知れませんね」と、これまでの歩みを振り返り笑顔を見せます。

社長に就任したのは、昭和51年、26歳の時でした。「神戸の大手洋菓子メーカーで修業中に会社を継ぐことになり、宇都宮に戻りました。西武百貨店がオープンして大きな話題になった後でしたが、家業は菓子屋という意識がありました」。町の発展とともに不動産の価値が上がり、経営が多角化しても、「桝金の主力は菓子」との思いが高蔵社長にはあったようです。

「桝金のメインは？と聞かれたら、『どらやき』と答えます。伝統の技法でふっくらと焼き上げた皮と、北海道十勝産の小豆を炊いた餡は、私が子どものころのままの味を守り続けています。今、食品には安心・安全が求められる厳しい時代です。だからこそ地元の素材にこだわって丁寧な商品づくりをしていくこと、時代のニーズを捉えてしっかりとした商品を提供していくことが大切だと思っています」。そう話す高蔵社長にとってうれしいのは、ジャムや生どらやきを中心とする栃木産「とちおとめ」を使ったオリジナル商品のヒット。洋菓子のイメージが強いイチゴを和菓子職人の手で新たなスイーツに仕上げ、ネット販売でも好評を得ています。

「私は、『ただ感謝』という思いを先代から受け継ぎました。この言葉が、創業以来、桝金に伝わる企業理念です。お客様、お取引様、原材料の生産者の皆様にただただ感謝をして、菓子づくりを通じて豊かな街、社会づくりに貢献していきたい…老舗の専門店としてがんばらなくてはいけませんね」

戸祭元町店の壁に掛けられた社是「ただ感謝」（書：清水公明師）

八幡山のふもとに建つ戸祭元町店

御菓子司
桝金・マスキン
（斎藤商事株式会社）

本社
宇都宮市曲師町 3-9 曲師ビル
☎028-633-2763

戸祭元町店／製菓工場
宇都宮市戸祭元町 1-1
☎028-650-5030

上戸祭店
宇都宮市上戸祭 1-1-7
☎028-643-1150

ラパーク店
宇都宮市馬場通り 2-3-12
☎028-637-1131

宇都宮駅ビルパセオ店
宇都宮市川向町 1-23
☎028-627-8425

http://www.masukin-co.jp

※このコーナーは隔月で掲載します。